

## 山邊研究室での思い出

塩田淑仁

私が山邊研究室に配属されたのはちょうど阪神大震災があった直後の平成7年4月でした。それから山邊先生退官までの間、学部・修士・博士と合わせて5年ほどお世話になりました。世界各国から訪問者の絶えない国際色豊かな研究室だったと記憶しています。一番の思い出はD2のときに、山邊先生と日中理論化学シンポジウム(中国合肥市にて開催)に参加したときの出来事です。

この学会は現地の大洪水により何度も延期となっており、日程も急遽決まったもので、プログラムも不明となっていました。山邊先生に「ポスター発表で参加するように」と言われて、A4でモノクロ印刷した原稿を携えて上海経由で現地に向かっていたときのこと。山邊先生が「大変な事が起きたで。連絡の行き違いがあって、君は口頭講演やから」と冗談か本気かわからないような口調でおっしゃったのです。「先生、ポスターしか持って来てないですよ。」と返答すると、「ここに無地のOHPフィルムが12枚ある。これで15分もたせてくれ。君は運がええで、今はちょうど上海という都会にいるから、ホテルの複写機でポスターから口頭発表用の原稿を作るんや。これから行く所は中国の田舎やからホンマに何もなくて、」と却下されました。本当に幸運なのかな?と思いながら、しどろもどろ原稿作成に取り掛かることにしました。英語の口頭発表が未経験の私かというと、その日から心配と緊張で食事が喉を通らなくなってしまいました。物見遊山気分が吹き飛んで、最初はとんでもないことになったという思いで先生を恨みさえしました。しかし、心配+緊張+現実逃避+諦め気分が絡まった変な気持ちにより、発表時には“この先生について行けばどんな困難もたいしたことないと思って乗り越えられる”と超がつくポジティブ思考になっていました。発表はどうかこうにか終わり、山邊先生にも(初めてにしては)なかなか発表よかったよと元気づけられて非常にうれしかったです。当時は大変でしたが、今ではすっかり笑い話になっています。この事件のおかげで少々のことではビクともしないようになりました。

最後におまけとして、先日(平成25年9月14日)、山邊先生喜寿記念&山邊研究室同窓会(85名参加)に参加したので、そのときの記念撮影の1コマを載せておきます。



図. 山邊先生に鍛えられたツワモノたち(被害者?). (山邊先生は前列中央左、著者は前列右端)